

未来に、胸を張ろう。



2000万署名で戦争法廃止へ

私の一言

皆さんは「人を赦す」ことができますか？家庭で、職場で、そして社会で自分の思い通りにならなかったときなど周りに人に対してつい腹を立ててしまうことはよくあることだと思います。価値観の相違がその根底にあるのでしょうかなかなか頭ではわかっていてもゆるせないジレンマがあったりします。また、悪いことをしたと反省してもなかなか素直に「ごめんなさい」が言えません。偉そうなことがいえた立場ではないですがこれらは人間である以上永遠の課題なのかもしれません。

これは国と国の間でも同じで、例えば今我が国にとっては中国や韓国・北朝鮮のすることなすこと気に入らないといった感じの論調が政権内やメディアで見られます。しかし、ふと考えると尖閣の問題にしても、竹島の問題にしても、慰安婦の問題にしても、北朝鮮のミサイル(?)の問題にしても、全ては日本の側からの視点です(当たり前ですが)。おそらく向こうには、向こうの言い分や根拠があるでしょうが、そんなものは日本のニュースでは取り上げられません。こんなことを根拠に「今、日本の周りには脅威が一杯だ、もはや時代が変わったのだ、憲法も変えるべきだ」などといわれても釈然としません。変えるべきものは軍力ではなく、相手の側からもものを見ることが出来る心・視点です。

人は一人一人違い、そして平等です。人種・言葉・宗教が違えば様々な考えや価値観があります。そしてそれは誰にも否定できません。しかしそんな多種多様な価値観の中で輝く数少ない共通不変の価値、それが「人を殺さないこと」ではないでしょうか？「抑止力」に対してまた「抑止力」で対抗していく

力の論理では永久に解決できないことなんだということを過去の歴史から、もう私たちも学ばなければなりません。同じことをしていたら同じことの繰り返しです、人はのど元を過ぎれば熱さを忘れ、制限をかけないと欲望へ突っ走ってしまう「弱い生き物」だからこそ、権力の欲望を縛る憲法9条は変える必要はないし変えるべきではないと思います。

私はまずこの国から「力によらない平和」の実現に取り組んでいくべきだと思います。力に対抗することができる唯一のもの、時代がいかになら変わろうが決して永劫変わることはない価値、変えてはいけないうもの、それはありきたりな言い方かもしれませんが「愛とコミュニケーション」しかないのではないでしょうか。

まあしかし、このように偉そうに言う前にまず自分が人をゆるすことができる人間になりたいと思います。

(高松協同病院地域ケア部 藤原勝之)



昨年末「下流老人」という言葉が流行語になりました。600万人いるとされる「生活保護基準相当で暮らす高齢者」のことです。

この高齢者、現役で働いていた時代には、「企業戦士」「猛烈世代」「日本型社員」など肯定的な意味で流行語になった世代です。その世代が年金を受け始めて約10年。

今の日本では、税金を払う側から使う側になった途端、マイナスイメージで捉えられるようです。政府もメディアもたった10年でこの世代を全く違った言葉で社会に発信するようになってしまいました。個人的には「メディアも節操がないなあ」と感じています。

さて昨年、日本は戦後70年を迎えました。10年で立場を変える人々にとって70年は十分すぎる

時間なのでしょう、世界に誓った平和憲法を公然と変えようとしています。

私には許せません。70年前の戦争で父母兄弟を奪われた家族にとって、この年月が簡単な時間ではなかったことも容易に想像がつかます。

戦争はあくまで政治・経済活動です。得する政治家も儲かる企業もあるので、しかし、そんな事で人々の幸せを奪う権利はありません。私自身も子どもや孫、その未来の子ども達に平和で幸せな暮らしをしてもらいたいと思いますし、同じ祈りが込められたものが平和憲法です。私たちが未来にした素晴らしい約束です。戦争法には断固反対し続けたいと思います。

(香川医療生協総務部 木村達彦)